

分科会	小6年②	郡市名	岡 崎
提案者	岡崎市立美合小学校		三 浦 良 見

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業
 - 6年 「わたしたちの願いを実現する政治」の実践を通じて -

1 はじめに

岡崎市社会科部では、昨年度まで2年間「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」を主題として、研究を行ってきた。1年次の研究（4年「変わってきたわたしたちの羽根学区」）や2年次の研究（5年「情報化した社会とわたしたちの生活」）では、以下の成果と課題が得られた。

1年次の成果と課題（○…成果 ▲…課題）

- 身近な社会現象を取り上げ、出会わせ方を工夫したり、未来の学区について考えたりすることで、子どもは切実感をもって学習に取り組むことができた。
- 資料の読み取りや地域の人への聞き取り調査を行うことで、自分の考えの根拠を明確にした話し合いをすることができた。
- ▲子どもが積極的に地域に社会参画していこうとする態度の育成には課題が残った。

2年次の成果と課題（○…成果 ▲…課題）

- 子どもにとって身近である「テレビ番組」を教材として取り上げ、番組作りを実際に行うことで、番組を製作する人達の思いや情報を送る側の責任を考えることができた。
- 番組作りをするときに、自分たちの学区にある神社やお寺、商店街、PTAの活動について調べたことを基にして、仲間とよりよい番組について話し合い、考えを深めることができた。
- ▲地域の人たちの願いを反映させた番組作りを行うことができず、人とかかわりながら自分たちの地域の中に社会参画していこうとする態度の育成には課題が残った。

これらの成果と課題を踏まえ、本年度は、「地域の人たちとかかわりながら、社会に参画していこうとする子どもの育成」を課題として、3年次の研究を進めた。

2 研究の基本的な考え

（1）研究単元の設定理由

美合学区に目を向けると、新しい給食センターが建設されるため、東部給食センターの跡地をどうするかが、話題になっていた。東部給食センターのある岡町の人たちは、町内に一つも公園が無いため、跡地を公園にしたいと考えていた。そこで、子どもたちに、東部給食センターの跡地利用について、地域の人たちの願いを受けながら、自分たちにできることは何かを追究させたいと考えた。そうすることで、仲間（学級の子どもたちだけでなく、地域の人たちや講師の方々も含む）とかかわりながら、社会に参画していこうとする子どもを育成することができると考えた。

しかし、子どもたちはどうしたら跡地に公園が建設されるのか、私たちの願いを伝えるには何をしたらいいのかなど、願いが実現していくまでの政治の仕組みが分かっていなかった。そこで、政治の仕組みについて学習をするため、美合学区にある岡町と丸山町とを結ぶ丸岡橋と丸岡新橋を教材化した。これらを教材化することで、岡町が丸岡橋の建て替えを数十年に渡って岡崎市に要望し続けていたことや要望し続けた理由、丸岡新橋を実現させようと尽力した人の願いや苦勞、願いが実現するためには市の財源や市議会が関わっていることなどを学ぶことができると考えた。また、丸岡新橋を通勤路や通学路として使っている家庭が多いことや現地調査しやすいこともよさである。さらに、丸岡新橋は来年度から美川中学校に通う多くの子どもたちの通学路になっているため、自分事としてとらえ、意欲的に追究できると考えた。そして、丸岡橋や丸岡新橋を通じて学んだことを基にしながら、東部給食センターの跡地利用について、地域の人たちと積極的にかかわりながら、自分の考えを構築したり、自分の考えを多くの人たちに発信したりしたい。

本単元を通じて、子どもたちが将来の担い手として、政治の仕組みに関心を持ち、自分たちの手でよりよい社会にしていこうとする力を養うこと、また地域の願いや実態を知り、そこから自分たちにできることは何かを考えることの大切さを学ばせたい。

（2）研究主題のとらえ

本研究では、研究主題「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」を次のようにとらえた。

●社会に参画していこうとする子ども

「社会に参画していこうとする子ども」とは、身近な社会事象を自分事としてとらえ、その中にある課題に対して、仲間とかかわりながら自分たちに何ができるかを考えて動き出そうとすることができる子どもととらえる。本研究では、東部給食センターの跡地を公園にしたいという地域の願いを実現するために、自分たちに何ができるかを考えて行動しようとする姿を追求していく。

●仲間とかかわりながら

「仲間」とは、共に学び合う学級の子もだけではなく、学びを通してかかわる人たち全てを含めたものととらえる。即ち、「仲間とかかわる」とは、「学習の対象となる人の話を聞いたり、地域の人たちの願いを調査したりすること、そして、その調べを基にして友達と話し合ったりすること」と考える。本研究では、丸岡新橋が建設されるに至るまでの流れについて、丸岡新橋実現に携わった方々を講師として招いて話を聞いたり、跡地利用について、地域の人たちの願いを、アンケート調査や聞き取り調査で調べたりする。そして、それらの学びを基にして理想の公園について話し合いを行う。

●問題の解決を図る

「問題の解決を図る」とは、「子どもが社会事象に出会ったときに生じる課題を、調査活動や話し合いにより、解決していくこと」ととらえる。本研究では、『子ども世代』、『お父さん・お母さん世代』、『お年寄り世代』の理想の公園について調査し、グループで話し合いながら考えを練り合っていく。その後、「みんなにとっての理想の公園は何か」ということを中心の課題とし、学級全体で話し合っ自分の考えを再構築していく。

(3) 目指す子ども像

- ・身近な社会事象を自分事としてとらえ、地域の人たちと積極的にかかわりながら、自分たちに何ができるかを考えて動き出そうとする子ども
- ・現地調査や聞き取り調査、アンケート調査したことを基に自分の考えを構築し、仲間とかかわりの中で自分の考えを見直したり、新たな見方や考え方に気づいたりすることができる子ども

(4) 研究の仮説

仮説 1 ①子どもにとって身近な事象を教材とし、②多くの人たちとかかわりながら追究活動をしたことを基に、④自分たちができることを考えたり ⑤自分たちの考えを地域の人に伝えたりすれば、学びを生かしながら地域の人たちの願いを実現するために何ができるのかを考えて動き出そうとする姿が見られるであろう。

仮説 2 ⑥追究課題を様々な立場から考え、⑦どのような要望を生かしていくべきかについて話し合うようにすれば、新しい見方や考え方に気がつき、自分の考えを再構築することができるであろう。

(5) 研究の手だて

仮説 1 に対する手だて

① 丸岡新橋と東部給食センター跡地の教材化による単元構想の複層化

・丸岡新橋を通して、願いが実現するまでの政治の仕組みを学ぶ。そして、その学びを生かしながら跡地を公園にしたいという地域の人たちの願いを実現するために、自分たちに何ができるのかを追究していく。

② 丸岡新橋の実現に携わった人たち及び「理想の公園」の実現に向けて出会う人たちとかかわり

・丸岡新橋の実現に携わった人の努力や苦労、また地域の要望を実現するために必要な税金や市議会の役割について考えるために、元総代会長さんや税務署の方、議会事務局の方、学区の市議会議員の方を講師として学校に招いて話を聞く。

③ 地域の人へのアンケート調査や聞き取り調査の実施

・地域の人たちがどのような願いをもっているかを調べるために、アンケート調査や聞き取り調査を行う。

④ 自分たちができることについて、考えがもてるような支援の工夫

・理想の公園を実現させるために、また地域の人たちの願いを知るために、自分たちができることについて考える。

⑤ 地域の人を招いた「美合版児童市議会」の開催

・自分たちの考えを発信するために、地域の人たちや市議会議員の方、総代さんなどを招いて美合版児童市議会を開催する。

仮説 2 に対する手だて

⑥ 三つの立場（「子ども世代」「お父さん・お母さん世代」「お年寄り世代」）からの「理想の公園」の追究

・「理想の公園」について、多面的に考えられるようにするために、「子ども」の立場だけでなく、「お父さん・お母さん」「お年寄り」にとって理想の公園を追究する。

⑦ 「みんなにとって理想の公園」の話し合い

・要望を全て叶えることはできないので、お互いの意見を練り合わせながら、何を優先的に取り上げていくべきかを話し合う。

(6) 抽出児童の設定

A 児（以下.....部）

学習全般において意欲的に取り組み、ワークシートに自分の考えを書いたり、話し合いの場では自分の意見を発表したりできる。今単元を通じて、地域の人の願いに触れ、自分たちにできることは何かを考えて動き出そうとする姿を期待する。

(7) 単元目標

- ・地域の人たちの願いを実現するための政治の仕組みに関心を持ち、進んで調べようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・「理想の公園」を地域の人たちに提案するため、地域の人たちの願いを調査し、それを基に考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・現地調査や聞き取り調査、アンケート調査を適切に行うことができる。 (技能)
- ・美合学区をよりよくしようと努力した人たちの思いや地域の人たちの願い、それを実現する政治の仕組みによって、私たちの暮らしがよくなってきていることを理解できる。 (知識・理解)

3 単元計画（19時間完了）

学習課題と学習内容・子どもの意識の流れ	教師の指導・支援
<p style="text-align: center;">東部給食センターの跡地には何ができるだろう。（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 東部給食センターの跡地に何ができて欲しいかを考える。（1） 自分たちにとって「理想の公園」を考え、実現するためにどうしたらいいかを話し合う。（1） 願いを実現させる方法が分からないことに気がつく。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールで思いっきり遊べる公園がいいな。 岡町の人たちは公園を要望しているらしいぞ。 私たちの願いが公園作りに生かされたらいいな。 私たちの願いを誰に伝えればいいのかな。 私たちの願いが実現する仕組みが分からないね。 最近、新しく学区にできたものはないかな。 丸岡新橋が最近建設されたぞ。どうしてだろう。
<p style="text-align: center;">丸岡新橋ができるまでのことを基に、願いが実現する仕組みについて学ぼう！（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸岡橋と丸岡新橋の周辺を現地調査する。（1） 家族の人に聞き取り調査を行う。 現地調査で気づいたことや、家族から聞き取り調査したことを発表する。（1） 20年前の要望書を読み取る。 <p>丸岡新橋がすぐに実現しなかった理由を予想してから、元総代会長の神谷さんから話を聞く。（1）</p> <p>願いを実現させるためには、①要望書を岡崎市に提出し続けること、②反対派の人を説得すること、③実態調査をすることなどが大切であることを知る。（1）</p> <p>税金の仕組みについて知る。（1）</p> <p>市議会の役割（市の予算を決めること、市の税金を決めること等）を知る。（1）</p> <p>政策が決定していく仕組みについて知る。</p> <p>中学校には生徒市議会があることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 丸岡新橋を作るために、地域の人たちは何してきたのだろう。 岡町に住んでいる人は、美川中学に行くために、丸岡橋を渡っているから危ないね。 丸岡新橋は歩道が整備されているから、安全に歩行できるね。 丸岡新橋建設は、何十年も前から毎年、岡崎市に要望を出し続けていたんだね。 どうしてすぐに実現しなかったのかな。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想】 どうしてすぐに実現しなかったのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 反対する人がいたのかな。 お金がかかったのかな。 他にやることがたくさんあったのかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 元総代会長の神谷さんが、反対の人たちを説得して、やっと実現したんだね。 神谷さんは学区の将来ことを考えていたんだね。 要望書を出したらすぐに願いが実現するのではないんだね。 税金から、丸岡新橋の費用が出ているんだね。 丸岡新橋建設は誰が決めたのかな。 市議会によって、税金の使われ方が決まるんだね。 岡弁、町バス、額田仙水など、生徒市議会で話し合われたことが、市政を動かしているんだね。
<p style="text-align: center;">政治の仕組みについて学習したことを基に、「理想の公園」を考えよう！（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> 三つの世代（①子ども②お父さん・お母さん③お年寄り）ごとに追究グループ（5～6人）を作り、活動の計画立てを行う。（1） グループに分かれて「理想の公園」について、追究活動を行う（4） 地域の人たちの願いを調査する方法を考える。 地域の人に聞き取り調査をする。 <p>美合小学校の子どもたちや保護者の方々、子どもたちの祖父や祖母にアンケート調査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の家族に、聞き取り調査をする。 学区の公園を調査する。 グループごとによりよい公園の提案を模造紙にまとめ、発表の準備・練習をする。（2） 	<ul style="list-style-type: none"> 美合版児童市議会を開催に向けて、それぞれの世代ごとの「理想の公園」を調査しよう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想】 地域の人たちの願いを調査する方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民から聞き取り調査をする。 家族に聞き取り調査をする。 世代ごとにアンケート調査を実施する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想】 三つの世代ごとの「理想の公園」</p> <p>①子ども世代</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きい広場がほしいな。 ボール遊びができるようにネットを張ってほしいな。 <p>②お父さん・お母さん世代</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠くからこられるように駐車場がほしいな 安全対策がされた公園がいいな。 <p>③お年寄り世代</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆっくり過ごせるようにベンチがほしいな。 ゲートボールができるように、広い広場がほしいな。 自然が多い公園がいいな。 </div>
<p style="text-align: center;">「みんなにとって理想の公園」を実現させるために、美合版児童市議会を開催しよう！（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えた「理想の公園」を地域の人たちに提案するために、美合版児童市議会を行う。（2） 岡町の総代、元総代会長の神谷さん、地元市の市議会議員から講評を聞く。 政治の仕組み（物事の決め方）を知る。 美合版児童市議会に参加した地域の人から感想を聞く。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想】 「みんなにとって理想の公園」とは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全面は特に優先順位が高いね。 監視カメラや街灯を増やすのはよさそうぞぞ。 近くに民家があるから、ボールが飛ばないようにネットが必要だね。 ホテルに関連したものはあったら面白そうだね。 遠くからこられるように駐車場は必要だね。 </div> <ul style="list-style-type: none"> どの要望も大切だけど、すべてを取り入れるのは難しいね。
<p style="text-align: center;">「みんなにとって理想の公園」をもう一度考え、学区の総代に提案しよう。（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような方法で「みんなにとって理想の公園」をまとめるかを話し合う。（1） 6年2組で話し合っただけの「理想の公園」の案を学区の総代に提案する。（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を決めるときは、話し合っただけで、最後は多数決で決めると言っていたから、「みんなにとって理想の公園」をもう一度考えて、総代に提案したい。 今回の学習で、自分が何かをしようと思っただけで行動すれば、周りの人も巻き込んで一緒に行動できるんだね。 これからも引き続き、行動しようとする気持ちが大事だね。

跡地に着目できるように、東部給食センターと建設中の新東部給食センターの写真を比較して見せ、「東部給食センターの跡地ってどうなるのかな。」と発問する。

「理想の公園」を考えやすいように、東部給食センターと新東部給食センターを見学する。

私たちの願いを誰に、どのように伝えればいいかが分からないことを確認する。

政治の仕組みについて学べるように、丸岡橋と丸岡新橋を教材化する。→**手だて①**

見るべきポイントを知ってから現地調査ができるように、そのことをよく知っている方を講師として招聘する。

丸岡新橋が、岡町の数十年来の願いであったことに気づけるように、20年前の要望書を子どもたちに提示する。

丸岡新橋が実現するために元総代会長の神谷さんが行ったこと（①要望書を提出し続けること、②反対派の人を説得すること、③実態調査をすること）の話をしてもらおうように依頼をし、講師として招く。→**手だて②**

税金について学べるように、租税教室の方を講師に招く。→**手だて②**

市議会の仕組みについて学べるように、議会事務局の方を講師に招く。→**手だて②**

丸岡新橋での学びを生かして、今後の活動計画を立てるように助言する。→**手だて④**

意欲的に追究活動に取り組めるように、美合版児童市議会を開催することを伝える。

三つの世代に分けて、「理想の公園」を追究できるようにする。→**手だて⑥**

地域の人たちの願いを調査するために、今自分たちに何ができるかを考えるように促す。→**手だて④**

学区の主要な公園の写真を準備し、子どもがいつでも見比べられるようにしておく。

地域の人たちの願いを調査するために、「アンケート調査」や「聞き取り調査」を行う。→**手だて③**

自分たち本意で、突拍子もない提案内容を考えている班がいたら、丸岡新橋の学びに立ち返るように助言する。

グループで考えた公園のイメージが伝わるように、模造紙にアイデア図（①名前②立場③重要視したこと）を描く。

地域の人たちに自分たちが考えた「理想の公園」を提案するために、美合版児童市議会を開催する。→**手だて⑥**

美合版児童市議会に参加した地域の人たちから感想が聞けるようにしておく。→**手だて⑤**

自分の考えを再構築できるように、「みんなにとって理想の公園」を話し合う。→**手だて⑦**

「みんなにとって理想の公園」を決められるように、市議会議員さんから物事を決めるときの政治の仕組みを伝えてもらう。→**手だて②**

子どもが自ら動き出せるように、これから何をしたいかを問う。→**手だて④**

市議会では、多数決で物事を決定していくことから、学級投票を行って、6年2組の意見を決めていく。

4 研究の実際

(1) 「すごい！公園だって！」

東部給食センターの跡地には何ができるのだろう（第1時・第2時）

子どもたちに写真を見せながら、「新しい給食センターができれば、今の給食センターはどうなるのだろう。」と問いかけた。子どもたちは、「取り壊すのかな？」や「そのまま残すんじゃない？」と答えた。そこで東部給食センターを見に行き、東部給食センターが取り壊されるとかなり大きな土地ができることを確認した。そして、その土地に何ができれば嬉しいかを問いかけ、跡地利用について考えていった。実際の広さを実感した子どもたちは、「ドーム付きの公園」や「デパート」、「病院」、「美合小学校の第2グラウンド」など、様々な意見を出した。そこで、現岡町総代さんの要望書を提示した。要望書を見た子どもたちは、岡町が東部給食センターの跡地に、公園を設置したいと要望を提出していることを知り、「すごい！公園だって！」と驚きながらも、嬉しそうな表情を見せた。その後、どのような公園になったら嬉しいかを話し合った【資料1】。

【資料1】 どんな公園になったら嬉しいか（破線はA児）

◆遊具 ・アスレチック・ジャングルジム・ブランコ・おべり台
・ハンモック ・鉄棒 ・バンジージャンプ ・砂場

◆設備 ・トイレ・噴水・監視カメラ・ベンチ・自動販売機・机
・街灯・芝生・駐車場・公衆電話・時計・水飲み場・

◆特色 ・木かげ・足湯・野球グラウンド・バスケットゴール
・ドーム・テニスコート・広場・展望台・ネット

【資料2】 A児の授業感想
給食センターを見学して、だいたいどのくらいの広さなのかが分かった。子どもも大人も楽しく過ごせる公園がいいと思った。跡地にどうやって公園ができるのかを知りたい。私たちの願いを誰に伝えたら公園ができるのかを知りたい。

話し合い後に、公園に対する私たちの願いをどのように伝えていったらいいかを尋ねた。しかし、はっきりとしたことは誰も分からなかった。そのため、私たちの願いを誰に伝えればいいのか、どのように願いが実現していくのかを調べる必要があることに子どもたちは気がついた。【資料2】の破線部から分かるように、私たちの願いを伝える仕組みについて関心をもつA児の姿が見られた。

(2) 「どうしてすぐに丸岡新橋は実現しなかったのだろう？」

丸岡新橋ができるまでのことを基に、願いが実現する仕組みについて学ぼう（第3時～第8時）

手だて① 願いが実現していく仕組みについて学ぶために、丸岡橋と丸岡新橋の写真を提示した。 どうしてこんなにも近くに2つの橋が建設されたと思うかを尋ねると、「実際に見に行き調べて。」という声が出た。子どもたちは現地調査を行い、二つの橋を比べて、多くの違いを発見した。子どもたちは、車の交通量や道路の広さの違い、歩道の有無などをまとめた。また、家族が丸岡橋や丸岡新橋を利用している子どもは、家族に聞き取り調査を行い、新しく橋ができたことによって、生活がどう変化したかについて調べた。その後、現地調査や聞き取り調査から分かったことを基に、話し合った。話し合い活動を行うと、子どもたちは意欲的に調べたことを発表した。丸岡橋と丸岡新橋を比べると、丸岡新橋が建設されたことでとても便利になったことを確認した。【資料3】の破線部から分かるように、丸岡新橋が建設されたことで、暮らしが便利になったと考えるA児の姿が見られた。

【資料3】 A児の授業感想
現地調査を行ってみて、丸岡橋だけだと道幅が狭くて、多くの車が通れないから新しく丸岡新橋が建設されたと思った。新しく橋ができて、便利になったと思う。

話し合い後に、20年前の岡町の要望書を子どもたちに提示した。要望書を見て、子どもたちは20年以上前から丸岡新橋の要望が出ていたことに気づき、どうして実現までにこれほど時間がかかったのか疑問をもった。A児も、車がすれ違えないほど狭く危険な状態であったのにもかかわらず丸岡橋が20年以上そのままであったことに疑問をもった。そこで、丸岡新橋がすぐに実現しなかったのかはどのように話を話し合った。

「反対の人がいたのではないか。」「建設するお金が足らなかったのではないか。」「工事が難しかったのではないか。」と、様々な意見が出たが、全て憶測に過ぎず、根拠にかけものであった。そのため、**手だて②** 当時のことを詳しく知っている元総代会長の神谷さんを講師として招き、丸岡新橋が建設された経緯や実現するまでに時間がかかった理由、当時の苦労について話をしてもらった。 総代会長の神谷さんの話から、美川中学校に通う生徒たちが安全に登下校できるように丸岡新橋を建設しようとしたことを知ったA児は、【資料4】の破線部のように、丸岡新橋が自分たちと深くかかわっていることや、地域に住む私たちの暮らしを良くしようと努力している人がいることに気がつくことができた。

【資料4】 A児の授業感想
元総代会長の神谷さんが、私たちのために橋を作ることをずっと要望し続けたことがすごかった。美合学区にこんなすごい人がいたなんてびっくり。私だったら、市長さんに一度断られたら、あきらめてしまうと思う。いろいろな問題を乗り越えて橋を作った神谷さんは本当にすごいと思う。

元総代会長の神谷さんの話を聞いて、願いを実現させるために、何が大切であったかを話し合った。話し合いを通して、子どもたちは、「反対の人を説得したこと」、「本当に必要かどうかを自分の足で調査をしたこ

と、「あきらめずに行動し続けたこと」が願いを実現させるために、大切だったのではないかと考えた。

その後、市役所から手だて②租税教室の方を講師として招いて、地域の人たちの願いを実現するためにかかる費用は、税金から使われること、岡崎市の1年間の予算は約2,300億円(平成26年度)であることを話してもらった。租税教室を受ける前は「消費税がないほうがみんな幸せだから、消費税がない世界の方がいい」と言っていたA児は、「私たちの安心と安全のために使われているから、税金は必要だと思う。」と考えを改めた。

丸岡新橋建設に費用がいくらかかったのかを考えた。資料から約13億円であることを知り、「意外と安いじゃん!」や「えー!高いよ!」と、様々な意見が出た。予算約2,300億円の中の約13億円であったので、意外と安いと感じた子どもが多かった。A児もその一人であった。A児が書いた授業感想(【資料5】の破線部)を学級全体の話題として取り上げ、予想を立てるように促した。子どもたちは、「市長さんが決める。」や「お金を持っている

えらい人が決める。」など、様々な予想をした。そこで、手だて②議会事務局の方を講師に招き、予算がどのように決められてい

【資料5】 A児の授業感想

岡崎市の予算が、約2,300億円もあって驚いた。丸岡新橋は約13億円と思ったよりもそんなに高くないと感じた。2,300億円もある岡崎市予算の使い方はいったい誰が決められているのか疑問に思った。

くのかその仕組みについて話をしてもらいながら、ワークシートに学びをまとめた。A児の授業感想

【資料6】を見ると、破線部のようにの方が市民の代表者として選挙で選ばれていることや、お金の使い道を決めるために細かなところまで話し合

いが行われていることを知ることができた。また、議会事務局の方から「生徒市議会」というものがあることを教えてもらい、実際に生徒市議会のDVDを視聴した。自分たちよりも少し年上の中学生が、模擬市議会を開催していることを知った子どもたちは、手だて④これから理想の公園を実現させるために自分たちがや

っていききたいことを書いた。これからやっていききたいことに、A児は【資料7】の破線部のように、これからの自分たちにできることを考えた。またその他の子どもたちも【資料7】の下線部のような考えをもった。このことから、自分たちにできることを考え、動き出そうとする子どもたちの姿を見ることができた。

【資料6】 A児の授業感想

市議会の人は市民の代表で、選挙で選ばれていることを初めて知った。市議会の人が岡崎市長に作っていいかを聞いて、OKをもらうと思っていたけど、実際は逆だと知ってすごくびっくりした。何かを決めるときには、質問が多くて「〇〇町に建てよう」ぐらいで作っていると思ったけど、すごく細かなところまで話し合っているんだと思った。

【資料7】公園を実現させるためにこれからやっていききたいこと

- ・本当に公園が必要かどうか調査して、自分たちの考えた公園をいろいろな人に提案したい。(A児)…(調査と提案)
- ・生徒市議会に出て、私たちが考える理想の公園を提案したい。…(提案)
- ・どういう公園にするのか、細かく丁寧に書いて分かりやすくまとめて地域の人に伝えたい。…(提案)
- ・公園を作りたいという要望を岡崎市長に伝えたい。…(提案)
- ・地域の人たちがどんな公園が必要としているかを調査したい。…(調査)

(3)「旧東部給食センター跡地はかなり広いぞ!どこに何を置こうかな!」

政治の仕組みを学習したことを基に、理想の公園を考えよう(第9時~第15時)

ここから「理想の公園」を考える活動に取りかかっていく。前時に考えたこれからやっていききたいこと【資料7】をまとめると、「理想の公園について地域の人たちの要望を調べること」、「自分たちの考えた理想の公園を提案すること」に分類することができた。そこで、手だて⑤地域の人たちを呼んで、「美合版児童市議会」を開催し、自分たちの考えた理想の公園を発表することを目標として活動をスタートした。まず、公園は誰が利用するのかを尋ねた。すると「自分たち」と答える子や、「自分よりも小さい子」、「中学生」、「大人の人」、「おじいちゃん、おばあちゃん」と意見が挙がり、様々な立場の人が使っていることを確認した。そのため、これから手だて⑥「理想の公園」を考えるとき、①子ども世代②お父さん・お母さん世代③お年寄り世代にとって、「理想の公園」を考えるようにした。グループ分けができたところで、手だて④地域の人たちの要望を知るために、丸岡新橋の学びを生かした上で自分たちにできることは何かを問い、その活動計画を子どもに考えさせた【資料8】。アンケート調査は全グループが実施し

【資料8】地域の人たちから要望を知る方法

- ・地域の住民から聞き取り調査をする。
- ・家族にインタビューをする。
- ・アンケートを作成し、全校に協力してもらう。
- ・学区にある公園に行って公園にいる人に実際に話を聞く。

たいと希望があったので、全校児童に協力を呼びかけた。また、学区の公園を調べたいという意見もあったので、学区の公園を写真で撮って準備をしておき、全グループに配付した。そして、手だて③アンケート調査やお家に人への聞き取り調査、地域の人たちへの聞き取り調査、学区の公園調べを行ったところで、自分たちが調べたことを基にして「理想の公園」を追究していった。一つのグループあたり、80枚~150枚程度のアンケート結果があったため、それを根拠にして「理想の公園」を考えていくグループが多かった。また、

【資料9】 地域の人や家族へのインタビュー、アンケート調査の結果（主なもの）

＜子ども世代＞	＜お父さん・お母さん世代＞	＜お年寄り世代＞
<ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊びができる大きな広場がほしい。 ・ボールが外に出ないよう、ネットがほしい。 ・たくさん遊具がほしい。 ・ブランコやアスレチック、長いすべり台がほしい。（遊具他多数） ・自動販売機や駄菓子屋がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子が遊べる水遊び場がほしい。 ・安全対策で、防犯カメラや街灯がほしい。 ・少し遠くからでも車で行きたいから、大きな駐車場がほしい。 ・子どもが遊んでいるのを見られるよう、ゆっくりと木かげで休める場所がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが楽しめるように、自然を多くしたい。 ・「～してはいけません」ではなく、「～してもいい」というOK看板を設置したい。 ・健康器具や体力アップができるストレッチマシンがあるといい。 ・体の不自由な人が使えるように、障害者用のトイレがあるといい。

学区にある公園の写真だけでは分かりにくいところもあるため、休みの日に実際に公園に行ってどんな遊具があるか、他の公園の広さはどの程度かを見に行ってきた子どもも多くいた。地域の人たちからの要望が多くなったため、子どもが混乱しないか心配をしたが、要望をランキング形式にして優先順位をつけ、それを根拠にして「理想の公園」を考える姿を見ることができた。

また、A児のいるグループが公園建設に賛成か反対かを調査した結果、約95%の地域のお年寄りの人たちは公園の建設に賛成であった。しかし、中には反対の意見の人もいた。理由は、公園ができると不審者が出る可能性が高まるからというものであった。そこで、A児は反対意見の人を説得できるように、【資料10】の破線部のような考えをもった。これは、丸岡新橋の学習で、「私たちの願いを実現するために大切なこと」として学んだ「**反対の人を説得する姿**」であると言える。

また、【資料10】を詳しく見ていくと、「子ども世代」では、「④池下公園で遊んでいるときはネットがあってボールが外に出て行かないようになっているから」という記述や「②ターザンロープやテニスコートがないので、この公園の売りとしてターザンロープとテニスコートを設置したい」という記述からも、学区の公園調べや実際の体験は、「理想の公園」を考えるときに役立っていると言える。

「お父さん・お母さん世代」では、「④アンケートから、お父さんやお母さんにとって、遠くからでも行けるように駐車場を願う人が多かったので公園に入れたい」

【資料10】「理想の公園」追究活動中の授業感想

○「子ども世代」

- ・④池下公園で遊んでいるときはネットがあってボールが外に出て行かないようになっているから、この公園全体もネットで覆って、思いっきりボール遊びができるようにしたい。
- ・学区の他の公園を見ると、②ターザンロープやテニスコートがないので、この公園の売りとしてターザンロープとテニスコートを設置したいと思いました。

○「お父さん・お母さん世代」

- ・④お父さんやお母さんたちは公園に子どもを連れてきて遊ばせることが多いので、水遊び場を設置したい。
- ・④アンケートから、お父さんやお母さんにとって、遠くからでも行けるように駐車場を願う人が多かったので公園に入れたい。

○「お年寄り世代」

- ・アンケートの結果を見ると、地域の95%以上の人々が東部給食センターの跡地に公園を設置することに賛成でした。反対の人は、公園ができると不審者ができることを心配していたので、防犯カメラや街灯を多くを設置して、安全面に気をつけた公園にしたいと思いました。（A児）
- ・⑥お年寄りにとって「理想の公園」は、子どもがたくさん遊んでいる公園であることがとても驚いた。なので、子どもたちがたくさん遊べるように遊具を多く置きたい。
- ・遊んでいる子どもを安心して見られるように、⑥ベンチを多くおいたり、木かげができるように木々を植えたい。

【資料11】各グループで作成した「理想の公園」のアイデア図

<p>【名前】 深絆公園 【立場】 子ども 【重要視したこととその理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール遊びができるグラウンドを設置した。 ・ボールが外に出ないようにするためのネットを設置した。 ・子どもたちが仲良く遊んで絆を深められるように、遊具を多くした。 ・この公園と言ったら、これといった長い滑り台を設置した。 	<p>【名前】 みんなの公園 【立場】 お父さん・お母さん 【重要視したこととその理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい子が遊べるように水遊び場を設置した。 ・駐車場を2つ設置した。 ・お母さんやお父さんだけでなく、いろいろな人たちが快適に過ごせるよう、駐車場や駐輪場の歩道に手すりをつけた。 ・安全のために、防犯カメラや街灯を多く設置した。 	<p>【名前】 岡町スマイル公園（A児のグループ） 【立場】 お年寄り 【重要視したこととその理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんが健康でいられるよう、散歩コースやストレッチマシンを設置した。 ・子どもが遊んでいる姿を見られるように、ベンチや木々を多く設置した。 ・子どもが遊べるように遊具も多く設置した。

るように駐車を願う人が多かったので公園を入れたい」という記述から、アンケート結果を基にして、「理想の公園」を考えていることが伺える。また、「③公園に子どもを連れてきて遊ばせることが多いので、水遊び場を設置したい」という記述から、子どもを連れて一緒に公園で遊ぶお父さんやお母さんの立場から、「理想の公園」を考えることができていることが分かる。

「お年寄り世代」では、「⑤お年寄りにとって「理想の公園」は、子どもがたくさん遊んでいる公園であることがとても驚いた。なので～（以下省略）」という記述から、自分と異なる立場から「理想の公園」について考えることで、「お年寄り世代」にとって「理想の公園」は、遊具が多く設置されている公園であるという新しい見方をもつことができた。またそのために、お年寄りが快適に遊んでいる子どもたちを見ていられるように、ベンチや木々を設置するなど、新たな考え（下線部⑥）をもつこともできた。

このように、手だて⑥三つの異なる立場から「理想の公園」を追究していった結果、子どもの立場からだけでは見えてこなかった様々な「理想の公園」像を発見することができたと言える。子どもが考えた公園は、**【資料 11】**の通りである。

(4) 「すごい！ぼくたちの発表が新聞記事になっているよ！」

「みんなにとって理想の公園」を実現させるために、美合版児童市議会を開催しよう（第 16 時・第 17 時）

手だて⑤「理想の公園」を提案するために、美合版児童市議会を開催した。そこでは、「理想の公園」を地域の人たちや岡町の総代、学区の市議会議員の方に提案をした。提案はグループごとに協力しながら、自分たちの対象とする立場の人達から聞き取ったことやアンケート結果を基に考えたアイデアを、自信を持って発表することができた。その後、それぞれの立場になって考えた上で、手だて⑦「みんなにとって理想の公園」について、話し合いを進めていった。**【資料 12】**は、駐車場の有無について話し合っている場面である。

【資料 13】の破線部のように、A 児は他の子の意見（**【資料 12】** 下線①

②）を受けて、自分の考えを再考することができた。また、話し合いの終末に、手だて②学区の市議会議員の方から、実際の市議会も今回の美合版児童市議会のように、何度も繰り返し話し合った上で、最後は多数決で決めていくことを伝えてもらった。**【資料 13】**の下線部のように、物事を決める難しさや、それでも話し合うことの大切さを実感していた。また、そのときの様子は、「東海愛知新聞」や「チャンネルミクス」が取材に来て、新聞記事になったりテレビ放送されたりするなど、多くの人達の目にふれることとなった。子どもたちは、**【資料 14】**の下線部のように、自分たちが行動したことによって、僕たちの活動がメディアに紹介され多くの人たちから注目されたこと（下線部①）に、嬉しさを感じると同時に、すぐに実現するものではないから、これからも粘り強く活動をしていく必要があること（下線部②）を A 児は感想に書いた。これは、丸岡新橋の学習で、「私たちの願いを実現するために大切なこと」として学んだ「**あきらめずに行動する姿**」であると言える。また、美合版児童市議

【資料 12】「みんなにとって理想の公園」を考えたときに何が必要か	
C1	駐車場と駐輪場がいいと思う。駐車場や駐輪場があれば、遠くからでも来られるから。
T	聞くけど、駐車場っている？
A 児	そんな有名などこじゃないので、遠くの人あまり来ないと思う。岡町の人、自転車で来るかもしれないので、駐輪場はあるかもしれないけど、駐車場はいいと思う。
C3	1, 2年生の子が歩いてくるのはつらいから、大人の人に送ってもらうのに、駐車場はあったほうがいいと思います。
～中略～	
C5	あったほうがいいと思う。①美合学区でも遠い人はいるし、家族で来て、ゆっくりしたくても駐車場がないと車を止めるところがないのでゆっくりできないから。
C6	C5さんに似ていて、美合学区の岡町よりも遠いところから来て、もし小さい子がいる場合、車がないと連れて来れないと思うからです。
A 児	反対で、あそこ道は狭いから、駐車場に止めようと思って来ると、交通量が多くなって、自転車とか歩いてくる人が危険で事故が起こるかもしれないからいいと思います。
C7	入り口の前に、②車避けのポールをおいて、公園じゃないところに駐車場を作ればいいと思う。
T	駐車場を作ると、みんな遊ぶ場所が減っちゃわない？
C8	駐車場を作ると、ボールなどで遊んでいる子たちのボールが当たって危ないからいいと思う。
C9	もとの面積が広いので、駐車場を作っても遊ぶ面積はそんなに減らないと思う。

【資料 13】 美合版児童市議会後の授業感想

- ・駐車場を決めるだけでもとても迷った。初めはいらなくとも思っていたけど、岡町よりも遠くから来る人のことを考えたら、ちゃんと安全対策さえしてあればあってもいいかなと思った。(A 児)
- ・多くの人がいたので、とても緊張しました。話し合っても、なかなか決まらなかったけど、こうやって話し合いをすることが何かを決めるときには大事なんだと分かりました。
- ・全部が実際の要望なので、簡単には否定できないと思った。要望の中でも何が大事かをしっかり話し合わないといけないと思った。

【資料 14】 新聞記事やテレビ放送を見た児童の感想

- ・「理想の公園」を考えるのは大変だった。自分たちが考えて行動したことによって、①ぼくたちの考えを多くの人たちに知ってもらえて嬉しい。
- ・ぼくたちが注目されたのは嬉しいけど、②元総代会長は、何十年も要望を出してやっとなつて吐いたから、これからは願いを出し続けていきたい。(A 児)

【資料 15】 美合版児童市議会に参加した地域の方々の感想

- ・自分たちで調査したことが、これだけの内容になっていること、それをきちんと説明していることがすばらしかった。
- ・子どもたちがこれだけ真剣に公園について考えてくれているから、自分も岡町のことにもっと目を向けていきたいと思った。(他多数)

会に参加した地域の人たちからの感想を見ると、【資料15】の下線部のように、子どもたちが動き出したことが、周りの人たちも巻き込んで動き出そうとする原動力となったことが分かった。

(5) 「ぼくたちにできることって何だろう？」

みんなにとって「理想の公園」をもう一度考え、学区の総代に提案しよう（第18時・第19時）

美合版児童市議会を経た子どもたちに、**手だて④**これから何をしたいかを問いかけた。美合版児童市議会の中で、「みんなにとって理想の公園」について明確な答えがでなかった子どもたちは、学級でもう一度「みんなにとって理想の公園」を考えたいと答えた。そして、学区の総代の方に、僕たちの考えをしっかりと伝えたいと願った。それを受け、どうしたら「みんなにとって理想の公園」を決めることができるかを尋ねた。すると、**市議会議員の方が**教えてくれたように、まずはしっかりと話し合うこと、そして

【資料16】各グループが考えた、これだけはどういうアイデア
〈子ども世代〉 ・大きな広場 ・ボールネット
〈お父さん・お母さん世代〉 ・駐車場と駐輪場 ・水遊び場
〈お年寄り世代〉 ・ストレッチマシン ・ベンチ

【資料17】A児が「みんなにとって理想の公園」に込めた思い
①どの世代の公園も子どもが来てほしいと考えていたので、安全で楽しく過ごせるように長い滑り台とアスレチック、街灯と監視カメラをつけた。この公園は出入口を二つにした。出入口が一つだと出る時が不便だから。また、他のグループが考えたOK看板はいいと思ったので取り入れた。してもいいことが書かれたOK看板があると公園の印象が変わると思う。

して**最後は多数決で決める**という考えにまとまった。そこで、前回の話し合いを踏まえて、今回はそれぞれのグループにとって、これだけはかかせないというアイデアを話し合うことにした。複数挙がった場合はグループで多数決をしてアイデアを2つに絞ることとした【資料16】。そして、**手だて⑦**「そのアイデアは必ず取り入れること」、「今までの話し合いで良いなと思ったアイデアは素直に取り入れること」を条件として、「みんなにとって理想の公園」を考えていった。最後に各個人で再度「理想の公園」のアイデア図を描かせた。個人で描いたものは一定期間、教室内に掲示し、その後、「学級選挙」を行って一つのアイデアを決めた。

【資料17】はA児が、「みんなにとって理想の公園」を考えるときに大切にしたい要素である。「子ども」や「お父さん。お母さん」、「お年寄り」のどの世代でも、子どもの利用がキーワードとなっていたので、大きなすべり台やアスレチックを設置した。安全面に関しては、当初の考えである監視カメラや街灯を設置した。また、OK看板など他のグループで良いと思ったアイデアを取り入れた公園を考えることができた。

4 研究のまとめ

(1) 仮説1の検証

手だて①…第3時から第8時まで、丸岡橋と丸岡新橋を教材として、政治の仕組みや願いを実現するために大切なことを学んだ。そのときの学びが、P6【資料10】やP7【資料14】のA児のように（破線部）、地域の人たちの願いを受けた「理想の公園」について考えるときに生かすことができたので、意欲的な追究活動につながり、動き出そうとする姿が見られた。

手だて②…元総代会長や市役所の講師の方々、市議会議員の方を招いて話を聞くことで、政治の仕組みや願いを実現していくために大切なことを学ぶことができた。実際の市議会ではどのように物事が決まってくるのかについて学んだことは、P8本文の下線部のように、自分たちの活動に実際に取り入れることができた。

手だて③…「理想の公園」について、地域の人たちから願いを聞き取るために、アンケート調査や聞き取り調査を行った。P6下線部④⑤のように、世代によって「理想の公園」に対する「願い」が違うことに気がつくことができた。

手だて④…自分たちにできることを子どもに尋ねることで、子どもは主体的に活動に取り組もうとする姿が見られるようになった。政治の仕組みについて学んだ上で、何がしたいかを考えたP5【資料7】のA児のように、今後の活動について自ら考えて動き出そうとする姿がある。また、美合版児童市議会が終わった後に、もう一度学級で「みんなにとって理想の公園」を決め、学区の総代に提案したいと動き出そうとする姿が見られた。

手だて⑤…美合版児童市議会を開催したことで、地域の人たちに自分たちの考えを発表するだけでなく、P7【資料15】にあるように、地域の人たちからの意見を聞くことができ、双方向の意見交流を行うことができた。また、美合版児童市議会を開催することにより、意欲的な追究活動を行うことができた。

(2) 仮説2の検証

手だて⑥…「子ども世代」「お父さん・お母さん世代」「お年寄り世代」の三つの立場から「理想の公園」を考えたことで、子どもの学びが深まった。P6【資料10】の下線部⑤のように、「お年寄り世代」にとって、理想の公園が実は「子どもが遊べる公園」であることや、P8【資料17】のA児のように（破線部①）、「みんなにとって理想の公園」を考えるとき、子どもたちが大切な要素となっていることに気が付き、自己の考えを再構築することができた。

手だて⑦…話し合い活動によって、P7【資料13】のA児のように（破線部①）、自分の考えを再構築することができた。また、【資料17】破線部②のように、他のグループで提案されたOK看板を取り入れるA児の姿が見られた。

5 おわりに

本年度は、「地域の人たちとかかわりながら、社会に参画していこうとする子どもの育成」を課題として、実践研究を行った。その結果、多くの人とかかわりながら自分たちのできることを考え、動き出そうとする姿を見ることができた。次年度以降も、さらなる実践と研究を重ねていきたい。